

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：31601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K10934

研究課題名（和文）精神科患者の生活習慣病予防・改善を目的としたタイプ別食生活指導プログラムの構築

研究課題名（英文）Development of a type-specific dietary guidance program for the prevention and improvement of lifestyle-related diseases in patients with mental illness.

研究代表者

岡部 聡子（OKABE, SATOKO）

郡山女子大学・家政学部・教授

研究者番号：10551129

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：全期間を通しての概要は、既存の心理的摂食尺度The Dutch Eating Behavior Questionnaire(DEBQ)の日本語版は、健常者を対象とすることを目的として作成されており、健常者と精神科患者では因子構造が異なる可能性があることを論文で示した。新たな心理的摂食尺度に必要な要素について、臨床心理士・管理栄養士等で抽出を行った。実際の栄養指導に必要なツールはリーフレットであり、誰もが資料を活用できる環境を整備した、の3点である。更に、本研究を遂行する過程において、将来管理栄養士となる学生と精神科栄養士協議会の会員が集い、新たな連携が生まれた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神科患者は肥満になりやすい傾向にあり、肥満は生活習慣病を誘発する要因であるため精神科患者の肥満予防は主な課題である。本研究は肥満になりやすい摂食傾向を判定するツールづくりを推進した。既存の心理的摂食尺度の応用により、肥満と関係する心理的要因には外からの刺激によって食べたいといった外発的摂食要因が影響している可能性を見出した。同時に既存の尺度を健常者と比べることで患者との因子構造の違いを発見した。患者の認知には健常者と違いがあり、情動のうち、否定的な情動が外発的摂食刺激となることが示唆された。本研究活動が患者理解を深め、精神科の栄養指導における生活習慣病の改善に貢献するものと期待する。

研究成果の概要（英文）：The whole period is outlined as follows: 1) The Japanese version of the existing psychological eating scale, the Dutch Eating Behaviour Questionnaire (DEBQ), was developed for healthy subjects, and the paper showed that the factor structure may be different between healthy controls and patients with mental illness. (2) The factors needed for the new psychological eating scale were extracted by clinical psychologists, dietitians and others. (3) Leaflets were the necessary tools for actual dietary counselling, and an environment was created in which everyone could use the materials. In addition, the process of carrying out this study brought together students who would become dietitians and members of the Council of Psychiatric Dietitians, and a new collaboration was created through the advice of senior psychiatric dietitians on the leaflets developed by the students.

研究分野：栄養教育

キーワード：摂食尺度 ヘルスリテラシー 精神科 リーフレット 栄養指導

1. 研究開始当初の背景

本国の精神科病床数はOECD諸外国に比べて高いことが問題になっている。そのため、厚生労働省は2004年に精神科病床数を10年間で7万床減少させる方針を掲げた。さらに、厚生労働省は精神科入院期間5年を超える患者の減少を促進する施策を決定した。これらを受けて、精神科患者は地域社会の中で自立した生活を送ることがより強く求められるようになっていく。しかし、自立した生活の中で食の選択が自由になると、極度の偏食や抗精神薬の副作用により精神科患者は**食べる量のコントロールができなくなり肥満を助長することが明らかである** (Davison & Kaplan, Eating Behaviors, 14: 189-191, 2013)。その結果、自立した生活を送る**精神科患者の生活習慣病の罹患率は健常者よりも男性で2.3、女性で9倍高い** (清水, 山梨県立大学看護学部紀要, 12: 19-28, 2010)。自立した生活を送る精神科患者の健康面の支援においては食生活指導が行われているが、食生活指導の介入による効果がある場合とない場合がある。そのため、精神科患者には食生活指導の上でいくつかのタイプが存在すると現場で感じている者は多い。

これまでの研究 (岡部, 臨床栄養, 128: 385-390, 2016) によると、(1)自立した生活を送る精神科患者の食生活指導には、「食の誘惑に弱い」や「気分を静めるために食べる」など、複数のタイプが存在し、(2)そのタイプは疾病の区分とは異なることが示されている。これらの結果から、食生活指導は、疾病区分ではなく「食生活指導のタイプに合わせた指導方法の構築が有効なのでは?」という問いが生じた。また、先行研究 (岡部, 臨床栄養, 128: 385-390, 2016) の中で「食生活指導は精神科患者が理解しやすい言葉を用いているか?」という問いも同時にあり、ヘルスリテラシー (健康情報を入手・理解・活用する力, WHO定義) の概念を組み込んだ**タイプ別の食生活指導プログラムの構築**を目指した。タイプ別の食生活指導プログラムの構築と**介入研究での評価**により、共通の指導法を実践することで、より多くの地域の各精神科施設での**精神科患者の生活習慣病予防の成果**を上げられると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、精神科患者に対する生活習慣病の予防と改善に向けた栄養教育プログラムの構築にある。精神科患者は肥満になりやすい傾向にあり、肥満は生活習慣病を誘発する要因であるため精神科患者の肥満予防は主な課題である。肥満になりやすい摂食傾向を判定する「患者のタイプ分類のための心理的摂食尺度」の作成から肥満のリスクを判定するツールづくりを推進し、「タイプ別に実施する食生活指導プログラムの作成」によって肥満予防を目指した。

3. 研究の方法

1)タイプ別分類のための心理的摂食尺度の作成と信頼性・妥当性の検討

項目作成: 文献レビュー、専門家と患者等の議論より質問項目を作成

調査方法: 地域で生活する精神疾患患者約100名と健常者100名を対象に、上記の質問項目を用いた質問紙調査

分類方法: 精神疾患患者・健常者で摂食傾向の違いがあるのかを因子分析により解析し、患者の摂食特性から食生活指導のタイプを判定する。

2)タイプ別の食生活指導プログラムの構築

・プログラム作成：タイプ別に患者らをプロファイリングし、既存の食生活指導方法に関する文献レビュー、看護学・医学・栄養学・心理学等の専門家と患者間で議論をすることで、タイプ別介入プログラムを開発する。

・伝わりやすいプログラムへの改定：

- ① 上記で作成したタイプ別プログラムの内容や容易さをClear Communication Index (CDC)、Suitability Assessment of Materials (Top Stroke Rehabil. 2012;19:417)、帯3、マーカー法等、ヘルスリテラシーツールを用いて患者に届く言葉に改定。
- ② 本プログラムで用いる資料を作成する。資料には、イラストを適宜挿入予定であり、デザインをプロに依頼する。

3)タイプ別の食生活指導方法の介入研究

デザイン：2施設を対象としたクロスオーバー試験

手続き：施設A：前半に介入、後半に未介入、施設B：前半に未介入、後半に介入

調査項目：体重、BDHQ調査、QOL尺度、等

本研究体制

表1. 研究代表者、研究分担者、協力者の具体的な役割

	氏名	所属	プロジェクトでの役割	専門分野
代表者	岡部聡子	郡山女子大学、看護師・管理栄養士	総括、データ解析、プログラム作成	看護学・栄養学
分担者	後藤あや	福島県立医科大学、教授	本プログラム作成	医学・ヘルスリテラシー
	高橋徹	郡山女子大学、准教授	尺度作成、統計、プログラム作成	栄養学・統計学
	伊藤慎也	北里大学看護学部、講師	尺度作成、統計、プログラム作成	疫学手法の統計学
	本間杏菜	郡山女子大学、管理栄養士・助手	調査、食生活指導	栄養教育
	根本絢香	郡山女子大学、管理栄養士・助手	調査、食生活指導	栄養教育
協力者	有賀健太	すがのクリニック精神科患者当事者・ピアカウンセラー	尺度作成、本プログラム助言	精神科患者当事者
	丸森左貴	すがのクリニック看護師長	尺度作成、プログラム助言	看護学
	鈴木桂子	舞子浜病院栄養科長	尺度作成、プログラム助言	臨床栄養
	千原ふみ子	福島県精神科栄養士会会員	尺度作成、プログラム助言	臨床栄養
	鈴木実穂	すがのクリニック精神保健指定期	専門的助言、プログラム助言	精神医学
	大島秀之	すがのクリニック臨床心理士	尺度作成、プログラム助言	心理学
	奥山美希	すがのクリニック精神保健福祉士	尺度作成、プログラム助言	精神保健福祉

4. 研究成果

全期間を通しての概要は①既存の心理的摂食尺度 The Dutch Eating Behavior Questionnaire(DEBQ)の日本語版は、健常者を対象とすることを目的として作成されており、健常者と精神科患者では因子構造が異なる可能性があることを論文で示した(業績1)。

②新たな心理的摂食尺度に必要な要素について、臨床心理士・管理栄養士等で抽出を行った。

③実際の栄養指導に必要なツールはリーフレットであり(業績2)、福島県精神科栄養士協議会と協力して患者教育用のリーフレットを指導タイプ別に複数作成した。そして、誰もが資料を活用できる環境を整備した(その他ホームページ)、の3点である。更に、本研究を遂行する過程において、将来管理栄養士となる学生と精神科栄養士協議会の会員が集い、学生が考案したリーフレットを先輩である精神科管理栄養士がアドバイスすることで、新たな連携が生まれた。目的外の産物として本研究に学生が参加することで、精神科患者の特性理解を深めるきっかけとなり、次世代の医療従事者育成の一助となった。

COVID-19の蔓延により当初の実際の患者への食生活指導方法の介入研究までには至らなかったが、患者特性を反映し、かつ、質問数を減らして患者の回答負担のない栄養指導用

尺度の開発を進めている。新たな尺度作成のため、患者指導に関わっている管理栄養士等のコメディカルと研究者間でディスカッションを行い、研究協力機関のネットワークを構築した。

論文

1. Satoko Okabe, Shinya Ito, Aya Goto, Nobuhiro Konno : Comparative study of eating behavior between patients with mental illness and healthy controls using the Japanese version of the Dutch Eating Behavior Questionnaire. Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition Vol 33(2), 2024.

2. 岡部聡子、後藤あや、紺野信弘. ヘルスリテラシーの視点を活用した精神疾患患者用の栄養指導用リーフレットの評価と精神科栄養指導における電子媒体使用の可能性について. 郡山女子大学紀要第 59.3.169-181,2023.

その他

本プログラムで作成する栄養指導ツールをオンライン上で公開し、福島県内の病院で活用できるように整備を進めた。精神科栄養士協議会に加盟する精神科栄養士が栄養教育ツールを自由に活用するため、協議会を通して周知した。

<https://nutrition-koriyama.jimdofree.com/>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 岡部 聡子、後藤あや、紺野信弘	4. 巻 59
2. 論文標題 ヘルスリテラシーの視点を活用した精神疾患患者用の栄養指導用リーフレットの評価と精神科栄養指導における電子媒体使用の可能性について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 郡山女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 169-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 岡部 聡子	4. 巻 72
2. 論文標題 若年女性を対象とした簡便な「鉄摂取尺度」の改訂および再現性の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本家政学会誌	6. 最初と最後の頁 251-259
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11428/jhej.72.251	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Satoko Okabe, Shinya Ito, Aya Goto, Nobuhiro Konno	4. 巻 33
2. 論文標題 Comparative study of eating behavior between patients with mental illness and healthy controls using the Japanese version of the Dutch Eating Behavior Questionnaire.	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition Vol 33(2), 2024.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6133/apjcn.202406_33(2).0009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Okabe.S, Nemoto.A, Hashimoto.A, Goto.A
2. 発表標題 Trends in Leaflets for Nutritional Guidance Sought by Patients with Mental Illness and E-Health Literacy of Instructors
3. 学会等名 24th International Federation for Home Economics (IFHE) World Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 根本絢香、本間杏菜、高橋徹、伊藤 慎也、岡部聡子
2. 発表標題 精神科における心理的摂食尺度の妥当性について
3. 学会等名 福島県栄養改善学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田詩織、吉田萌、中村ひかり、岡部聡子
2. 発表標題 精神疾患を抱える対象者向けの栄養指導ツール作成の試み
3. 学会等名 東北家政学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>栄養教育ツール 精神科栄養士協議会 https://nutrition-koriyama.jimdofree.com/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	後藤 あや (Goto Aya) (00347212)	福島県立医科大学・公私立大学の部局等・特任教授 (21601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	橋本 杏菜 (Hashimoto Anna) (10817985)	郡山女子大学・家政学部・助手 (31601)	
研究分担者	根本 絢香 (Nemoto Ayaka) (10839195)	郡山女子大学・家政学部・助手 (31601)	
研究分担者	伊藤 慎也 (Ito Sinya) (30736707)	北里大学・看護学部・講師 (32607)	
研究分担者	高橋 徹 (Takahashi Toru) (80324292)	金沢学院大学・人間健康学部・教授 (33305)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関